

JR 肥前鹿島駅周辺整備全体構想策定業務 公募型プロポーザル選考

講評

選考委員会委員長 高尾 忠志
(九州大学持続可能な社会のための決断化学センター准教授)

肥前鹿島駅の未来を考えることは、我が国の駅の未来を考えることでもある。これからの時代に、地域にとって駅とはどんな場所であればよいのか。場当たりの対応では、次の時代の価値観に応えた「新しい駅」には到達できない。未来を見据えた戦略的なプログラムが必要であり、そのための構想を鹿島市はつくることにした。このチャレンジングな業務に全国から5者の応募をいただいた。

令和2年8月12日(水)に行われた第二次選考審査会では、第一次選考審査会を通過した4者からのプレゼンテーションを公開で行い、熱心な市民の皆様が見つめる中で、提案書を説明いただき、質疑応答を行なった。その上で、審査会による評価を行い、最優秀者と次点者、非選定者2者を特定した。

応募者に提案を求めたのは、①未来の鹿島市における「駅及び周辺に求められる役割」、②肥前鹿島駅が抱える最大の問題である交通問題解決に向けた「交通シミュレーション」の的確性、③関心が高く、関係者も多い駅周辺整備における「市民合意形成の取組方法」の3点である。提案者は、①では未来を語り、②では目の前にある現実も語り、③でそれらをつなぐプロセスを語っていただくことになる。したがって、夢も語り、現実も語る、もっと言えば、夢を現実的に語る、そういう能力が審査の対象になった。夢を語るためにこそ現実をしっかりと見据えておかなければならない。これまでどれほど多くの地域計画が、夢だけを語り、水の泡と消えていっただろうか。

その点、最優秀者の提案内容は、現実性と具体性に富んだ説得力のある内容であった。広域観光のハブとなり、「訪れる人と暮らす人が憩う交流の広場」となる駅を、中心市街地との連続性を持った広場、明快で拡張性のある交通計画、既存駅舎を活かした建築計画によって段階的に実現する、という提案が高く評価された。また、構想策定プロセスにおける関係機関協議、市民ヒアリング、市民ワークショップ、社会実験等の合意形成プログラムも相互に関連づけられており、特に市民合意形成において交通シミュレーションや社会実験を適切に活用していく姿勢が評価された。全会一致での最優秀者選定であった。

次点者の提案内容も魅力的であった。「人のための空間」を中心に据えた力強い

コンセプトとそれを支える大胆な提案、プレゼンストーリーは、「駅をホーム (home) に」という提案者の思いを乗せて聴く者の心に響いたに違いない。こちらも高い評価を得たが、残念ながら鹿島市のスケール感に比して大きな建築計画と、一方で非常にコンパクトな交通計画に対する説明内容において必然性が十分でなかった。

肥前鹿島駅の未来、鹿島市の未来を決めるプロセスはスタートラインに立っている。これから議論することは、10年後、30年後、50年後の鹿島市の未来である。だから、若い世代を含めた多くの方に、ぜひこれからのプロセスに参加していただきたい。